

## 1. 保健科学部

本学部の教育課程は、「基礎分野」「専門基礎分野」、「専門分野」を基本として、段階的に医療技術者としての高度な知識・能力を身に付けるべく構成する。なお、各学科とも各教育課程の分野において当該国家試験を受験するために必要な科目、単位数を充たす。

### 1) 基礎分野

医療人としての基礎を育むため、各学科共通の科目を配置する。

- ①豊かな人間性を育て、医療人としての倫理観、責任感や協調性を持たせるために、その基礎として人文科学、社会科学及びコミュニケーション分野の科目を配置する。この人文科学の分野においては「生命倫理」に関する科目を必修科目として医療人としての倫理観を育む。また社会科学の分野においては、「社会学」や「経済学」等の選択科目を配置して、社会に対する基礎的な理解力を高める。
- ②医療人として、あらゆる人に対して、高いコミュニケーション能力を自ら開発できるようコミュニケーション分野の科目を配置する。本分野においては、必修科目として「基礎セミナー」を配し、学生が自らグループで探究したいテーマを決め、調査、検討、議論してまとめ、発表を行う。更に、技法としてカウンセリング等を選択科目で学びコミュニケーションスキルを身に着ける。
- ③豊かな国際感覚を持ち、英語などを用いたコミュニケーションができ、更に、医療英語の基礎を理解して業務や研究等に活用できるよう、外国語の科目を配置する。英語については、「医療英語」を必修科目とし、「英会話」を選択科目として配置する。更に選択科目として英語以外の語学科目を複数配置する。
- ④医療人としてチーム医療の視点を持って、自ら学び考え、また情報分析を行えるよう自然科学分野及び保健科学分野の科目を配置する。自然科学分野においては、「情報処理」を必修科目としてパソコンの応用的技法を習得する。保健科学分野においては、「チーム医療論」を必修科目とし、他学科教員を交えた講義を行ってチーム医療への理解を深める。

### 2) 専門基礎分野

各学科に必要な科学的知識を修得するため、人体の構造と機能や基礎的な各学科技術を学ぶ科目を配置する。

#### A. 臨床検査学科

体内の構造や機能など基礎的な知識や分析技術を修学し、医療従事者への目的意識を自覚させ、専門科目へと段階的に繋げる。具体的には、「生命科学の基礎」「人体の構造と機能」「医学検査の基礎と疾病との関連」「保健医療福祉と医学検査」「医療工学・情報科学」の分野を設け科目を配置する。なお、選択科目として「看護学」の科目を配置してチーム医療を学べるよう配慮する。

#### B. 放射線技術学科

診療放射線技師として必要な科学的知識を修得するために、人体の構造と機能を始め、

自然科学の高度な現象を理解するための授業科目を開設する。具体的には、「人体の構造・機能・疾病」「保健医療における理工学的基礎」「放射線の科学・技術」の分野を設け科目を配置する。なお、選択科目として「看護学」の科目を配置してチーム医療を学べるよう配慮する。

### C. 看護学科

看護師及び保健師として必要な基礎的専門能力を身に付ける。このため、①人間についての基礎的理解、②保健医療を取り巻く制度に加え食生活や保健学的な幅広い理解、③医学全般や人間の病態、看護領域別の疾病と診断・治療について基本を学ぶ。具体的には、「人間の理解」「環境の理解」「健康の理解」の科目群を設け科目を配置する。

①人間の理解：人間の体と心の仕組みを学ぶ。

②環境の理解：医療、保健、福祉の基本的な知識を身に付ける。

③健康の理解：疾病や治療の原理を学ぶ。

### 3) 専門分野

各専門分野において科目横断的理解と実践力、探究心と問題解決姿勢、専門関連分野の理解を身に付け現場での実践能力を養う。なお、各学科の共通科目として「チーム医療演習」を配置し、各学科合同で事例演習を行って医療現場に必要なチーム医療に関し理解を深める。

#### A. 臨床検査学科

臨床検査に関する検査技術の修得や病態との関連性について学ぶほか、検査試料や検査結果の管理、臨床検査の現場での医療事故を未然に防ぐ手段・方法を養い、臨床検査のスペシャリストとして従事していくための専門的知識や技能を修得する。なお、本学独自の専門科目として「食品科学」についても専門的知識を修得する。具体的には、「臨床病理学」「形態検査学」「生物化学分析検査学」「病因・生体防御検査学」「生理機能検査学」「検査総管理学」「食品科学」「総合検査学」の科目群を設け科目を配置する。

この内「実習」においては、学内実習では共同で実験を進めることで協調性や自主性を養い、臨地実習では実際の臨床の現場を体験し、学内で修得した知識・技術の確認および実践的な技術や知識の修得を行うとともに、医療の現場での医療チームの一員としての自覚と責任感を認識させる。

#### B. 放射線技術学科

放射線に関する高度な専門的知識と医療技術をマスターすることを目的に、画像技術・核医学・放射線治療等に関する具体的な講義および学内実習を行う科目を配置する。具体的には、「診療画像学」「核医学検査学」「放射線治療学」「医用画像情報学」「放射線安全管理学」「臨床実習」「総合放射線学」の科目群を設け科目を配置する。

このうち臨床実習においては、これまで受けていた講義内容を実際に体験することで各専門領域の理解をより深める。診療放射線技師としての実践的な教育を行い、高度な専門性に裏付けされた技能と総合的かつ自主的判断力を養う。また、医療の現場で重要視されている、メディカルスタッフによるチーム医療の中で、他職種との役割分担と有機的な連携ができる人材を育成できるようにする。特に臨床現場を経験することで患者の接遇やチーム医療についても学び、医療人としての自覚を促す。

## C. 「看護学科

看護・保健医療や福祉現場において、チーム医療の立場から、状況を的確に判断し解決できる高度な看護能力・技術と管理・指導能力を習得させるため、「専門分野」と「専門分野（総合科目）」の2つの科目群を設け科目を配置する。

### ア. 専門分野の科目群

- ①看護の基盤：看護の基本的な技術知識を身につける。
- ②生涯看護援助：人のライフサイクルに応じた看護のノウハウを学ぶ。
- ③広域看護援助：地域看護や特殊分野での看護について学ぶ。

### イ. 専門分野（総合科目）の科目群

- ①科目横断的理解と実践力の養成（臨地実習や総合的な演習等）を通じ、より現場に即した技術知識を身につける。
- ②探究心と問題解決姿勢の育成（卒業研究等）に取り組み、また特論ではより多彩な知識を吸収する。
- ③専門関連分野の理解（災害看護、国際看護、ターミナルケア論等）により、医療人としての幅広い視野を身につける。

## 2. 助産学専攻科

### ①母子の生命・人格を尊重できる誠実な助産師を養成する。

助産学基礎領域では、助産学概論、助産管理論、助産学関連領域では生殖の生命倫理を学習させ、助産師としての倫理観の育成、母子の生命、人格を尊重することを習得させる。また、助産学実習では、「態度」として人権尊重、礼節ある態度、秘密厳守等について評価する。

### ②正常分娩の介助が少しの助言でできる

助産学実践領域の中の助産診断技術学を妊娠期、分娩期、産褥・新生児期に分けて、正常経過と異常経過が理解しやすいよう1事例を通して学習する授業計画にしている。また、助産学実習は、知識のテスト（妊娠期、分娩期、産褥・新生児期）と分娩介助技術試験に合格しなければ臨むことができない。助産学実習での受持ちは、入院で初めて会う。そのため、礼儀正しく、丁寧な言葉遣いが必要である。また、短時間で人間関係の成立をしなければならぬため、コミュニケーション能力と相手の立場になって考えることが必要である。

### ③妊娠期・分娩期・産褥期（新生児含む）にある対象の助産診断ができ、創意工夫をした保健指導ができる。

助産学実習で受け持つ経陰分娩10例は、入院時・受持ち時に助産診断を行い、分娩に影響を及ぼす因子の判断と具体的ケアを明確にさせる。妊娠期の保健指導は、教員が直接指導する。産褥・新生児期は、臨地指導者が直接指導する。

### ④母子支援についての広い視野をもつことができる。

助産学実習、助産管理実習では、対象に対して社会資源の活用をした保健指導を実習する。助産学実習終了後は、学生に自己の助産観を考えさせ、どのような助産師になりたいのか、どのような活動をしたいのか発表させ、自己の課題を明確にする。

### 3. 大学院保健医療学研究科

岐阜医療科学大学大学院保健医療学研究科(以下、本大学院)においては、技術者・教育者・研究者として自立し、高度医療専門職としての知識と理論を修得、研究活動を行うために以下のようなカリキュラムを編成している。

- ①学年の定員を9名(2学年で18名)とし、個別指導に近い少人数での教育によって高度な保健医療学の知見の集積と研究手法の修得を目指す。
- ②共通科目では、保健医療学の4分野、「在宅保健医療学」、「高齢者保健医療学」、「母子保健医療学」、「医療連携展開学」を横断的に理解できるよう「保健医療学総論」「保健医療学研究方法論」「チーム医療展開学総論」「病態解析学」「医療倫理学」「危機管理学総論」の6科目を必修科目として受講する。
- ③共通科目修了後、専門分野に関わる見識を深め、様々な視点から問題点を抽出する「特論」と、研究の実践方法や先行研究の理解・評価方法を修得する「セミナー」を受講する。さらに個別の研究課題を実際に行うための手法を修得、さらに考察する思考経路、記述方法を修得する「演習」を行う。
- ④「特別研究」として個別の研究テーマを設定し、計測、解析、記述といった作業を行い、修士論文を作成することで、研究を行うための方法論を実践し修得する。

以上のような過程を経て高度医療専門職として保健医療学全般に関する深い見識を持ち、種々の課題を発見・解決できる研究能力を育成する。